

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成26年2月)

平成26年2月13日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況														補足説明
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4 ~ H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定期検査による停止														
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止														
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止														
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止														
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24 ~ H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定期検査による停止														
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31 ~ H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定期検査による停止														
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18 ~ H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定期検査による停止														

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (1月末現在)

1月	0.0%
25年度累計	0.0%
運転開始後累計	57.7%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (1月末現在)

1月	0
25年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H25年度第3四半期)

当期発生本数	921
貯蔵庫累積貯蔵本数	31,197
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H25年度第3四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (2月3日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	829	2,285	55%
	刈羽村	80	196	5%
	その他	113	909	18%
	小計	1,022	3,390	78%
県外		94	1,141	22%
合計		1,116	4,531 (3,757*)	-
		5,647		100%
協力企業社数(社)			772	

※2月3日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (1月末現在)

	1月	年度累計
地元	632	7,651
県内	125	6,790
県外	178	9,640
国外	0	308
合計	935	24,389

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
2月27日	定例の記者説明会
3月13日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	平成25年 8月12日	6号機	タービン建屋1階非常用電気品室の電源盤の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（発生状況） 平成25年8月11日午後5時23分頃、定期検査中の6号機タービン建屋1階非常用電気品室（非管理区域）において、電源切替作業のために停止していた海水熱交換器エリアの480V電源盤について、作業終了に伴い電源盤の復旧作業を行ったところ、当該電源盤内の遮断器1台が動作しないことを確認しました。当該遮断器は、非常用ディーゼル発電機の冷却等を行う原子炉補機冷却系の電動弁等に電源供給を行っています。</p> <p>（安全性、外部への影響） 今回の不具合は作業のために隔離中の系統で発生したもので、6号機では、他の2系統の非常用ディーゼル発電機が待機状態であり、保安規定上の問題はありません。 本不具合による外部への放射能の影響はありませんでした。</p> <p>（対応状況） <u>当該遮断器は、8月12日に予備の遮断器と交換し、正常に動作することを確認しました。</u></p> <p><u>原因調査の結果、遮断器断路部に塗布した古い潤滑油が劣化し、潤滑油に含まれる樹脂（絶縁物）が固化したことで遮断器断路部において接触不良（通電不良）が生じたものと推定しました。また、劣化した古い潤滑油は、前回点検において遮断器断路部の清掃が十分でなく、残留したものと推定しました。</u></p> <p><u>当該遮断器の清掃および動作確認については、点検毎に行っていますが、今後、古い潤滑油を除去したことを確実に確認するため、新たに断路部の通電確認を行っていくこととしました。</u> <u>また、水平展開として全号機にある同型遮断器断路部の点検清掃を順次行ってまいります。</u></p>
②	平成26年 1月29日	発電所 構内	敷地境界ダストモニタにおける微量な放射性物質の検出について（区分その他）	<p>（発生状況） 平成26年1月28日から29日にかけて実施しておりました構内のモニタリングポストに設置されているダストモニタによる浮遊じんのだれ測定（12月採取分）において、1箇所のだれモニタからごく微量の人工放射性物質であるセシウム134（検出限界値3.6×10^{-12}ベクレル/cm³に対し、2.3×10^{-11}ベクレル/cm³を検出）及びセシウム137（検出限界値3.0×10^{-12}ベクレル/cm³に対し、5.0×10^{-11}ベクレル/cm³を検出）を検出しました。 なお、敷地境界にはダストモニタを3箇所設置しており、他の2箇所では検出されておられません。</p> <p>（評価結果） 検出された核種について、この値は、告示濃度で定める空気中の濃度限度に比べセシウム134は約80万分の1、セシウム137は約60万分の1と極めて低い値です。 また、仮に1年間この濃度の空気を呼吸し続けた場合に受ける放射線量は3.1×10^{-6}ミリシーベルトであり、自然界から1年間に受ける放射線量2.4ミリシーベルトと比べても十分低い値です。</p> <p>（安全性、外部への影響） 各号機の主排気筒放射線モニタや、発電所敷地境界近傍に設置された空間線量率を測定するモニタリングポストの指示値は通常の範囲内であり、周辺環境への影響はありません。</p> <p>（対応状況） 検出された核種については、当発電所に起因するものではなく、福島第一原子力発電所事故由来の影響と考えております。</p>

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	平成26年 2月6日	4号機	原子炉補機冷却海水系ポンプB号機の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（発生状況） 定期検査中の4号機において、平成26年2月5日に原子炉補機冷却海水系ポンプ予備機起動試験（定例試験）のため、原子炉補機冷却海水系ポンプB号機の起動操作を実施したところ、ポンプが起動しないことを確認しました。このため状況の確認を行ったところ、同日午後2時10分頃、海水熱交換器建屋地下1階（非管理区域）のB系非常用電気品室において、ポンプに電源供給を行っている電源盤内のしゃ断器に不具合があることを確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 現在、当該ポンプは保安規定上の機能要求はなく、安全上の問題はありません。 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 当該しゃ断器を予備のしゃ断器と交換し、正常に復旧しております。今後、原因調査を行ってまいります。</p>
④	平成26年 2月7日	6号機	6号機圧力抑制プールへの資機材の落下について（区分Ⅲ）	<p>（発生状況） 平成26年2月6日午後1時40分頃、定期検査中の6号機圧力抑制室内グレーチング床上において、室内の計装品の耐震強化作業準備のため、協力企業作業員が床面の火気養生を行っていたところ、火気養生用の資機材（ブリキ板：約90cm×約43cm×約0.3mm）を誤って床下の圧力抑制プールへ落下させてしまいました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 落下した資機材が圧力抑制プール内に設置されている非常用炉心冷却系のストレーナを閉塞させる可能性はなく、安全上の問題はありません。</p> <p>（対応状況） その後、落下したブリキ板は2月7日夕方に回収しました。 <u>当所では、以前より圧力抑制室への異物混入対策に取り組んでいますが、今回の落下を受け、作業関係者へ改めて異物混入対策の周知徹底を図りました。引き続き再発防止に努めてまいります。</u></p>